

## 1 単元名 想像を広げて読もう

## 2 学習材 「きつねのおきゃくさま」 (教育出版) 教科書教材

## 3 単元について

本単元は、場面の様子に着目して登場人の行動や気持ちを想像しながら読むことをねらいとしている。

これまで、児童は1学年で「お手紙」2学年では「えいっ」などの物語文を通して、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読む学習をしてきた。これまでの学習で、内容を大まかにとらえ、登場人物の気持ちを想像することができた。しかし、本文からの確に根拠をとらえて、想像を膨らましている児童はまだ少ない。

そこで、本単元では登場人物の気持ちが変わった根拠となる、文章中の重要な語や文を見つけさせたい。そこから、自分の思ったことの根拠を述べたり、登場人物の気持ちを想像させたりしたい。

本単元の言語活動として、「吹き出し」に登場人物の気持ちを書くことを位置づける。登場人物になりきって吹き出しを書くことを通して、想像を広げて読んだり、思ったこと書いたりする力をつけたい。

## 3 指導計画 (10 時間扱い)

## ◆指導事項 1. 2 年 C 「読むこと」

エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること

## ◆言語活動

次	時	主な学習活動と内容	
1	1 2 3 4	◎課題を明確にし、学習の見通しをもつ。 ①音読を通して、登場人物や場面構成をつかむ。 ②初発の感想を書く。 心に残ったところ、疑問をもったところを話し合い、本単元を通して考える課題を明確にする。	並行読書 (きつねが登場する作品など)
2	5 6 7	◎きつねの気持ちを想像して吹き出しに書いたり、友達と伝え合ったりして、きつねの気持ちがどのように変わったのか考える。 ③ひよこに出会った時のきつねの気持ちを考える ④ひよこことあひるの話の聞いている時のきつねの気持ちを考える ⑤ひよこことあひるとうさぎの話の聞いている時のきつねの気持ちを考える	

	8 【本時】 9	⑥おおかみと戦っている時のきつねの気持ちを考える ⑦はずかしそうに笑って死んだときのきつねの気持ちを考える	
3	10	◎学習したことをまとめる。 ⑧きつねのおきゃくさま全体を振り返り、わかったことや思ったことを書く。	

## 5 本時の指導（8／10）

- (1) 目標 場面の様子に着目して、きつねがおおかみと戦っている時の気持ちを考えることができる。 【読むこと エ】
- (2) 仮説との関連

文学的な文章に関する教材の読みを基調として、課題について書いたり交流したりして考えを深め、授業の振り返りの在り方を工夫していけば、「書くこと」を通して読む力を向上させることができるだろう。

本教材文は、きつねがひよこと出会い、食べようとするところから始まる。しかし、ひよこ、うさぎ、あひろの世話をしていくうちに次第に気持ちは動く。山場となるおおかみとの戦いの場面では、3人を守りたいとおおかみの前に出て戦うほど気持ちに変化する。

そこで、まず、一次の物語のあらすじをとらえる場面では、お話の始めと終わりでは、きつねの気持ちや行動が大きく変わることをとらえさせる。「なぜ、いつ、きつねの気持ちに変化したのか」ということを、物語全体の自分たちが解決をしたい課題とし、児童が主体的に学習できるようにしたい。

二次では、きつねの気持ちを吹き出しに書くという言語活動を設定する。2年生という発達段階において、登場人物の吹き出しを書くことは、気持ちを想像させる上で有効な手立てだと考える。この際、本文からはなれないよう、根拠となる部分を個の学習や全体の学習で意識させたい。

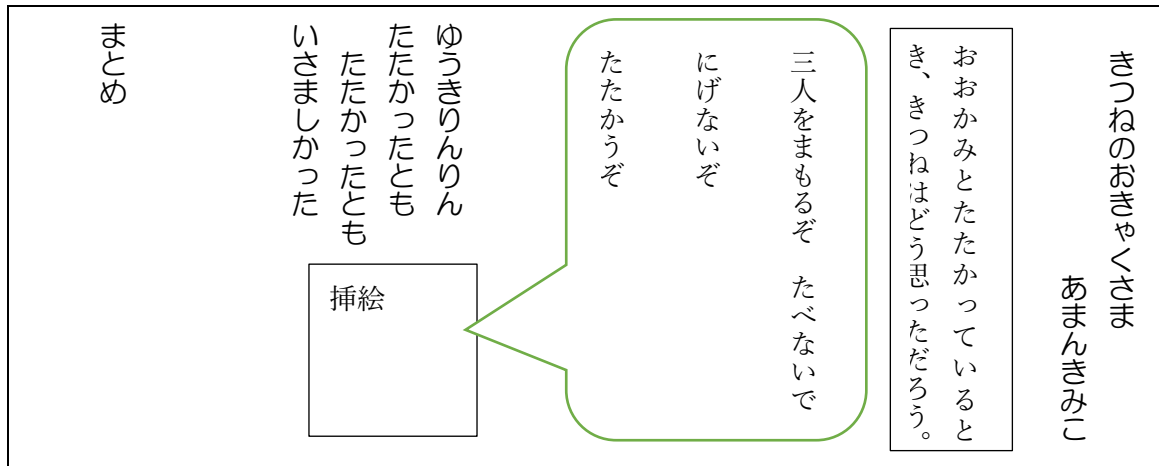
一単位時間のまとめでは、本時を振り返り、きつねはひよこ、うさぎ、きつねに対してどう思っていたのか、気持ちは変化したのかなど、常に全体の課題へと振り返ができるようにしていく。板書には、話し合ったことのキーワードを簡潔に残し、この学習した言葉を使ってまとめることによって、自分の読みを振り返らせたい。

(3) 展開

学習活動と内容	過程 時配 形態	○指導 ◎評価 ☆仮説との関わり
<p>1 学習範囲を音読する</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおかみが下りてきた</li> <li>・おおかみが、ひよこと、うさぎとあひるを食べようとしてる。</li> <li>・今日は、この場面のきつねのきもちを考えたいな。</li> </ul>	<p>見出す (5) 一斉</p>	<p>○挿絵をもとにして、きつねとおおかみが戦ってる場面であることを確認する。</p>
<p>おおかみとたたかっているとき、きつねはどう思っていたらう。</p>		
<p>3 戦っているときのきつねの気持ちを想像して、吹き出しに書く。</p>	<p>調べる (10) 個別</p>	<p>○吹き出しに書く根拠となるように、本文にサイドラインを引かせる。</p> <p>○吹き出しを書くことに、悩んでいる児童には、本文の会話文の言葉を書き写してもよいことを伝え、そこから想像が広がった部分があればつけたすよう助言する。</p>
<p>4 書いたものをペアの友達と交換したり、赤で吹き出しに書いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここが違うね。いい考えだから、ぼくの吹き出しに付け足すね。</li> <li>・このセリフ、同じだよ。</li> </ul>	<p>深める ペア (5)</p>	<p>○友達と交換して吹き出しを読みあう時には、読んだ後に同じや違うなどの反応が返せるように助言する。</p> <p>○読んだあと、なるほどと思ったこと、付け足したいと思った点などを赤で吹き出しに書くよう促す。</p>
<p>5 吹き出しに書いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人はぜったいに守るぞ。</li> <li>・3人を守るためなら、逃げないぞ。</li> <li>・死んでもいいから、頑張るぞ。</li> <li>・せっかくここまで育てたのだから、食べられたくない。</li> <li>・ゆうきりんりんという言葉がある</li> </ul>	<p>一斉 (15)</p>	<p>○発表したことが焦点化されるように、きつねの気持ちを想像する上で大切な言葉のみを板書する。</p> <p>○吹き出しの言葉の根拠なる本文の言葉にも着目させ、発言を整理する。</p> <p>○挿絵も活用することによって、おおかみに立ち向かうきつねがいかに勇敢であったのかをとらえさせる。</p> <p>○それぞれの考えを尊重しつつ、きつね</p>

<p>から、すごく頑張ったんだよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言うなりというのは、言ったらすぐに飛び出したということ。迷わずいったんだね。</li> <li>・たたかったともたたかったともということは、激しい戦いだったということだと思う。</li> </ul> <p>6 今日の学習を振り返ってまとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きつねは、戦っているときに3人を守りたい気持ちでいっぱいだったことがわかりました。</li> <li>・出会ったころは、ひよこを食べようとしていたけれど、この場面できつねの気持ちが大きく変わったことがわかりました。</li> </ul>	<p>まとめ あげる 個別 (10)</p>	<p>は、この時点で3人を守ろうとしていたことに焦点化する。</p> <p>○学習を通してどんなことがわかったのか、自分はそれをどう思ったのか、全体を振り返って書くように促す。</p> <p>○まとめを書くことにとまどっている児童には、板書のキーワードを使ってまとめるように促す。</p> <p>◎場面の様子に着目して、きつねとおおかみが戦っている時の気持ちを考えることができる。(ノート 発言)</p>
--	------------------------------------	--

(4) 板書計画



(5) 並行読書リスト

- ・「かいけつゾロリ」シリーズ 原ゆたか 作
- ・「ともだちや」シリーズ 内田麟太郎 作
- ・きつねのでんわボックス 戸田和代 作
- ・手ぶくろを買いに 新美南吉 作
- ・きつねのぱんとねこのぱん 小沢 正 作 他

第3学年 国語科学習指導案

授業者 3年1組 寺田 貴大

1 単元名 登場人物のせいかくを考えながら読もう

2 学習材 「 のらねこ 」(教育出版)教科書教材

3 単元について

本単元では、「のらねこやリョウの行動や心情、性格などについて、叙述を基に捉える力」をつけるために、最後の場面のリョウをみつめるのらねこの台詞を考える言語活動を行う。

児童はこれまでに2年生の「アレクサンダとぜんまいねずみ」で、場面ごとに登場人物の心情は大きく変化することに気付き、場面ごとに理解した主人公の気持ちを物語風にまとめる学習をしてきた。さらに3年生の「白い花びら」では、登場人物の心情や性格は会話だけでなく場面の様子や地の文からも読み取ることができることを理解し、登場人物の行動や性格をふまえたうえで物語の続きを予想する学習をしてきた。これらの学習を通して児童は、会話に着目し登場人物の心情や性格を把握する力は身につけてきた。しかし、地の文から心情や性格を把握する力は少し足りないように感じている。現に「白い花びら」の学習で児童が登場人物の心情や性格を把握するための根拠としていたのは会話を中心だった。さらに場面の様子が書かれている地の文に着目した児童は少なかった。そこで、本単元では、登場人物の心情や性格をより深く理解するために本教材の中に多くちりばめられている会話だけでなく、地の文にも着目させ、登場人物の1人である「リョウ」の心内語に気付かせる。そのことを生かして、地の文からものらねこの性格など多くの情報を読み取ることができることを理解させ、より深く心情を読み取る力を身につけさせていきたい。

言語活動として、「最後の場面でののらねこの台詞を考える」ことを位置付けた。場面ごとに会話や地の文から登場人物2人の心情や性格を把握し、把握したことを根拠にしながら最後の場面において走り去るリョウの後ろ姿を見つめるのらねこの台詞を想像して書かせ周りの児童との交流を行っていきたい。

4 指導計画(8時間扱い)

◆指導事項 3, 4年「読むこと」

イ 登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えること。

エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること。

◆言語活動 最後の場面ののらねこの台詞を考え伝え合う。

次	時	主な学習活動と内容	
1	1	◎学習の見通しをもつ。	

	2	①物語を読みあらすじをつかむ。初発の感想としてのらねこの性格を考え、交流することで周りの児童がどのような考えを持っているのか知り、自分との違いを見出す。 ②国語辞典を活用して語句の意味調べを行う。	並行読書  三木卓の作品
2	3 4 5 6	◎登場人物の性格を把握する。 ③1次で見出した性格の感じ方の違いを基に物語を読み登場人物の性格がわかる叙述を調べ話し合い、わかったことをまとめる。 ④登場人物の心情の変化をとらえる。	
3	7 【本時】 8	◎把握した性格を基にまとめの感想を書く。 ⑥把握したのらねこの性格を基に最後の場面の挿絵に描かれているのらねこがどのようなことを思っているか学んできたことを根拠にして台詞を書き伝え合う。 ⑦単元のまとめの感想を書き交流する。	

## 5 本時の指導（ 7 / 8 ）

(1) 目標 最後の場面において、のらねこはどのような気持ちでリョウとかいねこを見ているか想像したことをもとに話し合う。 【読むこと エ】

(2) 仮説との関連

文学的な文章に関する教材の読みを基調として、課題について書いたり交流したりして考えを深め、授業の振り返りの在り方を工夫していけば、「書くこと」を通して読む力を向上させることができるだろう。

児童は前時までに登場人物の2人の性格や心情の変化について学習し、ノートにまとめている。それを受けて本時では、前時までの学習内容を基に飼い猫と元気に走り去っていく「リョウ」の後ろ姿を見つめている「のらねこ」の心情に焦点をあて、台詞を考えさせて書かせる。また、書いた内容を2人組やグループで交流させる。その時にノートに書いた台詞だけを交流させるのではなく、台詞を書くときに参考にした前時までにつかんだ性格など根拠も一緒に発表させる。そうすることで、どのような考えでその台詞を書いたのかがわかり、より深く考えを理解でき読む力の向上へつながると考える。

(3) 展開

学習活動と内容	過程 時配 形態	○指導 ◎評価 ☆仮説との関わり
<p>1 最後の場面の挿絵を参考に本時のめあてを確認する。</p>	<p>見出す (5) 一斉</p>	<p>○黒板に最後の場面の挿絵を貼り、どのようなことを考えるのかを明確にする。</p>
<p>学習問題 最後の場面ののらねこはどのような気持ちでリョウをみていたのだろうか。</p>		
<p>2 登場人物2人の性格を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ のらねこはすごくいじわる。</li> <li>・ 愛情をうけたことがない。</li> <li>・ 初めてのことにものすごく慎重になる。</li> <li>・ リョウは誰にでも優しい。</li> <li>・ ぶっきらぼうなのらねこにも優しく接し教えてあげようとする。</li> </ul> <p>3 最後の場面においてのらねこはどのような心情でいるか考えノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もう少しでかわいがるがわかったのに。</li> <li>・ 誰かに足を触られるのって気持ちがいいんだな。</li> <li>・ あんな恥ずかしい姿他のねこに見られずに済んだな。</li> <li>・ リョウはまた可愛がってくれるかな。</li> <li>・ 結局ぼくみたいなのらねこではなく自分の飼っているねこの方がいいんだな。</li> </ul>	<p>調べる (5) 個別</p> <p>(13) 個別</p>	<p>○前時までの振り返りを行うことでどのような事を参考にして考えるかを明確にする。</p> <p>○登場人物の性格のキーワードを用意し黒板に貼っていく。そうすることによって個別で考える時に中々思いつかない児童の考えるヒントとして活用する。</p> <p>○最後の場面の挿絵を小さくコピーした物を配布しノートに貼らせる。前時までの自分のノートや板書、挿絵をヒントに考えさせる。</p> <p>○前時までに考えてきた性格を基に台詞をかかせるので、台詞の内容は個人にゆだねる。しかし、必ず自分が考えた性格を基に考えるよう声をかける。もし自分が考えた性格とは違う内容の台詞にする場合は、その根拠を確実に書くよう指導する。</p> <p>☆台詞だけを書くのではなくそのように考えた根拠も含めてノートに書くよう指導する。</p>
<p>4 ノートに書いたのらねこの台詞を周りの児童と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぼくはのらねこは意地悪なんです誰かに愛されたいという気持ち</li> </ul>	<p>深める (7) グループ</p>	<p>○全体で交流する前に近くの児童と交流させて全員が自分の考えを伝えることができるよう配慮する。</p> <p>☆自分の考えだけを伝えるのではなく友</p>

<p>を基にこういう風に思っているのではないかと考えました。</p> <p>・私はのらねこはリョウを好きになりかけている気持ちを基にこういう風に思っていると考えました。</p> <p>5本時の振り返りを行う。</p>	<p>(10) 一斉</p> <p>まとめあげる (5) 一斉</p>	<p>達の意見を聞いてどのような感想を持ったのかまで伝えるよう指導する。</p> <p>○一斉の場においても友達の発表を聞いてどのような考えを持ったのか聞いていた側にも発表させる。</p> <p>◎のらねこはどのような気持ちでリョウを見ていたかについて自分の考えを伝え合うことができたか。(発表)</p> <p>○本時の授業を通してどのような考えを持ったか振り返りをノートに書かせる。</p> <p>○感想だけでなく友達と交流してみて気付いたことなども書くよう指導する。</p>
--	-------------------------------------	---

(4) 板書計画

